

〈富岡地区 キャリアシート〉

研究主題 志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒の育成

〈研究の概要〉

富岡市立北中学校区では、志をもって自分の生き方を切り拓く児童生徒を育成するため、中学校区、家庭、地域との連携を強化し、児童生徒の発達段階、家庭や地域の実態に応じたキャリア教育の推進を図った。

そこで、9年間を見通したキャリア教育にするため、4つの「基礎的・汎用的能力」を両校児童生徒の実態と照らし合わせた上で、「5つの力や心(小野小)」・「6つの姿(北中)」として設定し、発達段階に応じた身に付けさせたい力を明確にして、全体計画に位置づけた。また、児童生徒が学習活動を振り返り、「身に付けたい力」や「自己の成長や変容」に目を向け、学びを実感できるように、児童生徒用キャリアシートを活用して、自立心や自己肯定感を高められるように工夫した。さらに、年間指導計画をより実効性のあるものにするために、キャリア教育の重点単元を位置づけた教師用キャリアシートを作成・活用して、各教科とキャリア教育との関連性を図った授業づくりを実践した。

その結果、児童生徒が意欲的に学校生活を送る姿が見られるようになり、目標の実現に向けて自主的に行動できるようになった。

1 主題設定の理由

富岡市立北中学校区は、小学校一校、中学校一校であり、現在は小学校1年生から中学校3年生までのすべての学年が単学級である。そのため、子どもたちの多くは9年間同じ友人たちと学校生活を過ごし、仲が良くして落ち着きがある。しかし、中学校を卒業すると、全く新しい友人たちと人間関係を築き、新しい環境で学校生活を始めるという、多くの児童生徒が初めてとなる経験が待ち受けている。

そこで、児童生徒が中学校を卒業した後、新しい環境で周囲に埋もれたり流されたりせず、自分自身をしっかりと生きていける力をつけさせたいと考え、小中9年間を見通して「志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒の育成」を主題として設定した。

2 研究のねらい

小・中学校の9年間を「社会的・職業的自立にかかる基盤形成の時期」ととらえ、小・中学校や地域と連携を図りながら小・中学校におけるキャリア教育の在り方を研究するとともに、全体計画や年間指導計画を作成し、キャリア教育の視点に基づいた発達段階に応じた授業実践を行い、「自分を理解すること」「人や社会とかかわり、適応したり働きかけたりすること」「目標に向かって努力すること」「身の回りの仕事に関心をもつこと」「あこがれや希望をイメージすること」等ができる児童生徒を育むことを目指す。

なお、学校の教育活動全体を通して児童生徒のキャリア発達を目指すことから、授業実践は各教科・領域等からなる教育課程全体を対象とし、実践を通して、高い志をもって根気強く取り組んだり、あこがれや希望を抱きながら努力したりすることで、自らの生き方を切り拓いていく児童生徒を育成する。

3 実態

(1) 地域の実態

富岡市立北中学校区（小野地区）は、富岡市の北東部に起伏する富岡丘陵にある。第1次産業に従事する人が約3分の1で、農業がほとんどであり、蒟蒻、葱など野菜栽培に従事する人が多い。他地域と同じように高齢化が進み、人口は減少傾向にある。そのため、米作りなどの農業体験を行う場や指導する人材に恵まれている一方で、事業所や店舗が少なく、将来の職業人に必要な職業観や勤労観を育むために必要なモデルが少ないという課題がある。学校教育に対しては、熱心で好意的な方が多く協力的である。

(2) 児童生徒の実態

両校でキャリア教育にかかわる児童生徒の実態を話し合ったところ、小野小学校では、「自分をさらに伸ばそう、発展させようという気持ちが弱い」「より高い目標達成に向けた意欲的な姿が見られない」「経過や過程を重視せず、結果を繕う傾向がある」「学校外への関心が低い」「自分の考えを人前で話すことが苦手」といった実態が挙げられた。北中学校では、「自分に自信がなく、人前で話すことが不得手」「自らの考えで行動する力に欠ける」「困難に立ち向かう意思力が乏しい」「他者と交流することが苦手」「言動が受動的で、控えめで遠慮がち」といった実態が挙げられた。小野小学校・北中学校ともに、山間に位置する全学年単学級の小規模校に特有の実態が浮き彫りになった。

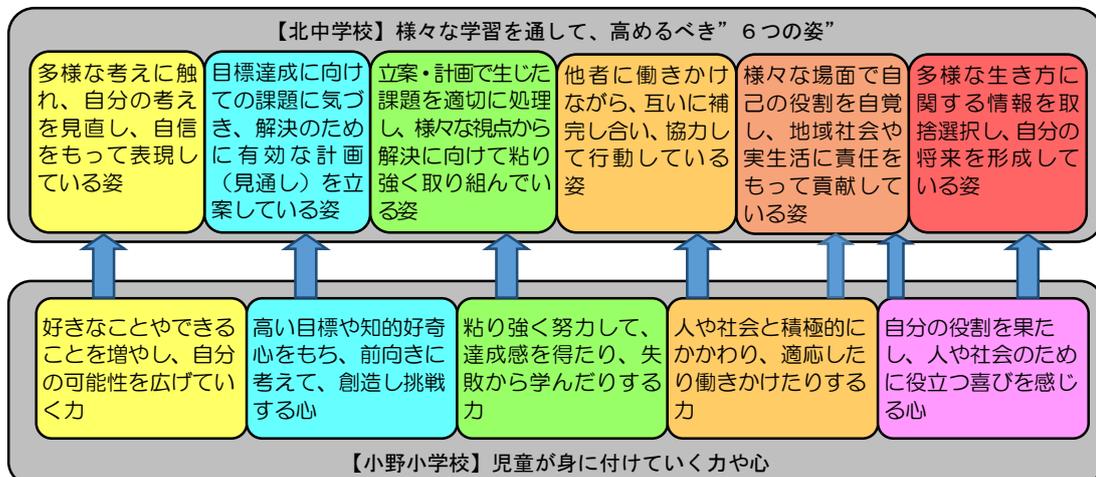
4 目指す児童生徒像

【北中学校区】	志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒
【北中学校】	自ら考えをもち、目標に向かって、主体的に行動できる生徒
【小野小学校】	みんなといっしょによりよく生きる児童

5 研究内容

(1) 5色（6色）の力や心（姿）と全体計画

前述した実態を踏まえ、全体計画を作成した。小野小学校では、児童に身に付けさせたい資質・能力として「5つの力や心」を、北中学校では、生徒の高めるべき姿として「6つの姿」を以下のように設定した（図1）。

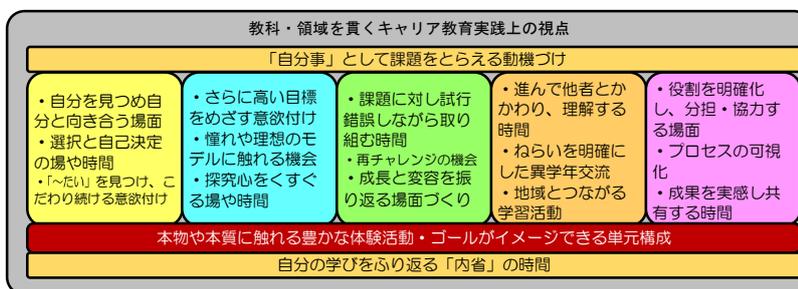


<図1> 「6つの姿」（北中）と「5つの力や心」（小野小）

「5つの力や心」と「6つの姿」は、文部科学省発行の『小学校キャリア教育の手引き<改訂版>』『中学校キャリア教育の手引き』で示されている4つの「基礎的・汎用的能力」と両校児童生徒の実態を照らし合わせた上で作成したものである。文部科学省が示す基礎的・汎用的能力と1対1で対応するものではなく、「5つの力や心」「6つの姿」すべてに基礎的・汎用的能力が密接に関連しているという考え方である。

これら「5つの力や心」「6つの姿」は、全体計画等で必ず色分けして示すようにした。これにより、視覚的に違いをわかりやすくし、教師間でイメージを共有しやすくなることができた。キャリア教育に関わるすべての活動は、この5色（6色）で色分けしていくこととし、児童生徒用キャリアシートや掲示物などに反映させている。

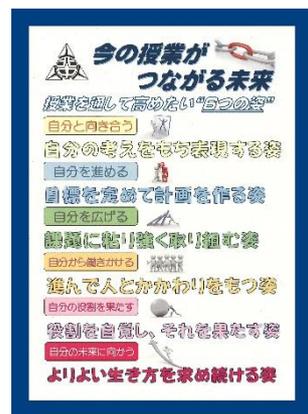
加えて、全体計画の中に「キャリア教育実践上の視点」を明記した（図2）。通常の授業をこれらの視点で捉え直し、重点目標に迫るための手立てに迷わないように、ヒントとして活用するためである。これは、キャリア教育のスパイス（調味料）と言ってよい。各々の視点のいずれかを具体化し、手立てとして意識的に取り入れることにより、全教育課程においてキャリア教育の実践が可能となることを目指したものである。



<図2>「キャリア教育実践上の視点」（小野小）

（2）日常の授業を核としたキャリア教育

キャリア教育というと、一般的には「将来の夢や希望をもつ」という言葉がつくことが多い。しかし、両校では、「将来の」という言葉をつけることにより、児童生徒が現在と未来のつながりを意識しづらくなったり、単なる空想に終わってしまったりするという負の側面を考えた。そこで、小野小学校では、「将来の」という言葉をあえて取り除き、もっと身近で短期間のうちに実施可能な「夢や希望」を実現させるというキャリア教育を模索した。一方で、北中学校では、自己の役割や生き方、働き方の暫定的選択が必要となるため、より身近で現実的な未来を「自分の未来に向かう」という、将来への展望を意識したキャリア教育を考えてきた。そこで、「今の授業がつながる未来」の合い言葉（図3）のもと、キャリア教育を重点的に実践する単元を選び、日常の授業を核として、意識的にキャリア教育に関わる能力を高めていくこととした。



<図3>合い言葉ポスター（北中）

（3）教師用キャリアシートによる計画と実践（年間指導計画に代わるものとして）

両校では、キャリア教育の年間指導計画をより効果的・実践的にするものとして、教師用キャリアシートを考案した。教師一人一人が各教科・領域から、キャリア教育にかかわる単元を抜き出し、個人の実践計画を作成するものである。また、実践した際には、児童生徒の様子や反応を記録するようにした。児童生徒の成長や変容を見取り、次回の改善につなげることができるようにするためである。

<北中学校の教師用キャリアシート>

通常の年間指導計画に代わるものとして、北中学校でも「教師用キャリアシート」(図5)を作成・活用した。本校は全学年単学級で、一人の教員が1年から3年までの全学年の教科指導を行っており、3年間を見通した指導計画の作成が比較的容易である。そこで、3年間の指導内容を1枚のシートにまとめたものがこれに当たる。

作成に当たっては、まず、各教科で、「6つの姿」が高められる単元・題材を学年ごとに4つ選定した(※C)。この時、一単元・題材で、高めるべき姿は必ず1つとした。そして、中学校学習指導要領の各教科の目標を、6つの姿ごとに洗い直し、記入した。それと並列する形でキャリア教育の視点を記入した。単元・題材構成は、まず、高めたい姿をねらいとして記入する。そして、そのねらいを達成するための手立て・支援を記入する。授業後に、生徒の姿(ねらいとした姿まで高まったかどうか)を記入し、最後に改善点(評価)を記入していくものである(※D)。1学年、4つの単元・題材を選定してあるが、学年末に、各学年の生徒がどのような姿になってほしいかを最終的なゴールの姿として記入してある(※E)。

なお、前述したように、各単元・題材で高めるべき姿は1つとしたが、1つの教科で6つの姿を全て高めるのではなく、各教科の特質を生かして、高めるべき姿を選定した。また、本校生徒の実態から、特に高めたい姿として、「自分の考えをもち表現する姿」と「進んで人とかかわりをもつ姿」を設定している教科が多くなっている。(図5「教師用キャリアシート(国語)」は1年生のみ、この後に2・3年生が続く)

キャリアシート【教師用】 (国語)

6つの姿	自分の考えをもち表現する姿	目標を定めて計画を作る姿	課題に粘り強く取り組む姿	進んで人とかかわりをもつ姿	役割を自覚しそれを果たす姿	よりよい生き方を求め続ける姿
教科の重点目標 (学習指導要領)	話す・書く・書く・読むことで自分の考えを深めようとする態度を育てる	目的や意図に応じ、必要な情報を集め活用する力を育てる。	目的や意図に応じ、資料や表現などから読み取る力を育てる。	相手や場に応じて、話したり聞いたりする力を育てる。	役割に対する認識を深め役割を専らする態度を育てる	
キャリア教育の視点	話し合い・書く・読むを通して得た自分の考えを伝えている	自分の考えを伝えるために必要な情報を集め、表現を工夫している	資料や表現などを自分の考えの根拠にして作品を読んでいる	場の状況や相手の反応に応じて話したり聞いたりしたことを自分の表現に生かしている	作品や活動を通して、自分の生き方を考えている	
1年生	6月 ④ ○指導内容(手立て・支援) ○生徒の姿 □改善点(評価)	事実と意見を区別して話している。 危険なところを事案、改善案を意見として考えるようにする。 聞き手を意識しながら、自分の意見を話すことができた。				
9月 ④ ○指導内容(手立て・支援) ○生徒の姿 □改善点(評価)	※C 意見	※D 美術作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書いている。 色や構図など、観点を決めて文章に書くようにする。 五感を基にすることで、根拠が明確な意見文になった。 第一印象に何を書くか、から指導が必要がある。				
11月 ② ○指導内容(手立て・支援) ○生徒の姿 □改善点(評価)				意見文を互いに読み合い、文章のよさを発見しあっている。 共通点や相違点を見つけ良い点や参考にした点を交流する。		
2月 ① ○指導内容(手立て・支援) ○生徒の姿 □改善点(評価)						
最終的な1年生の姿	ねらいを定めて自分の考えを伝えている。	計画に沿って、話し合いなどの準備をしている	描写に専心して、作品を読んでいる	話し合いや交流の場で、意見を言ったり聞いたりしている。	自分を見つめ、生き方を深めていくことの大切さを考えている	

<図5> 教師用キャリアシート(北中・国語)部分

(4) 児童生徒用キャリアシートによる見取りと評価

キャリア教育は、児童生徒の社会的自立に向けた力を身に付けさせるものであり、単なる体験活動や通常の学習指導に終わらず、将来の生きる力につなげる必要がある。そのため、単元の前と後を比較して、どんな力が身に付いたか、どんな成長や変容があったかを児童生徒自身が意識していくことが重要である。そこで、キャリア教育を重点的に実践する単元では、「児童生徒用キャリアシート」を使用することにした。

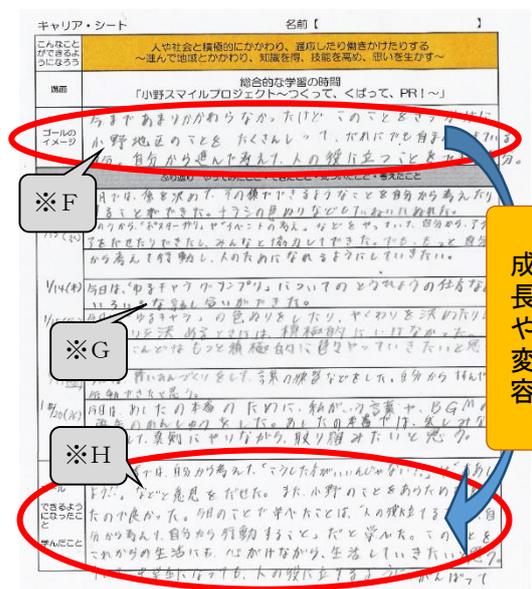
<小野小学校の児童用キャリアシート>

小野小学校では、キャリア教育を実践した際に、「児童用キャリアシート」(図6)を活用して児童に振り返りをさせた。教科等で活用される「振り返りカード」にあたるものであるが、従来のものと異なる点は、児童が学習において身に付けた知識や技能を振り返ったり、学習の感想を書いたりするのではなく、「身に付けた力」や「成長や変容」に目を向けて、学習活動を振り返ることができるようにしたものである。

キャリア教育実施単元では、児童自身が成長や変容を確認できるようにするために、単元の導入や前半部分で、児童が単元の最終的な目標をはっきりと認識できるように工夫する。児童は、単元の流れを把握したのち、「ゴールのイメージ」を書き込む(※F)。目標にあたる部分であるが、ポイントは、「力を付けた自分の姿や理想とする自分の姿」「終わったあとに変化していきたい自分の考えや思い」といった「姿」や「思い」を書くことである。こうすることで、漠然と起きた事実を振り返って書くだけでなく、自身の成長や変容に目を向ける児童を育てることができると考えた。

児童は、各時間の最後に、「自分がやってみたこと」や「考えたこと」「学んだこと」などを、記入していく(※G)。その際に、単なる学習活動の記録や感想にならないように、教師は「どんな力が身に付いたか」「どんな心が育ったか」を意識して書くよう助言することが重要である。

単元の最後には、児童が「ゴール」を書き込む(※H)。単元を通して学んだことやできるようになったことを、最初に記した「ゴールのイメージ」と照らし合わせて振り返る。自分が身に付けた力や心を実際の姿として捉え、成長や変容を実感できるようにする。



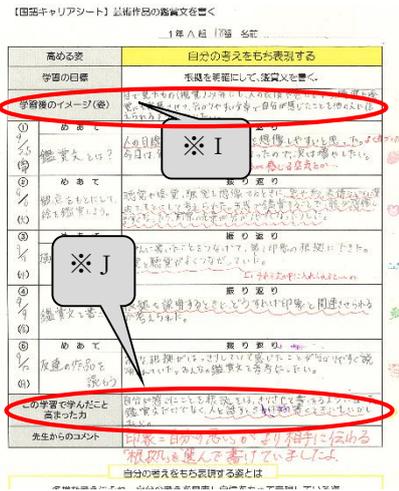
<図6> 児童用キャリアシート (小野小)

児童用キャリアシートは、発達段階に応じて、低学年用と中・高学年用の2種類を用意した。低学年では、文章での表現が難しいため、星(マーク)を塗りつぶすことで自分の満足度や成長の度合いを表現するようにした。3年生以上では、書き方に慣れた方がスムーズに振り返りをすることができると考え、共通の形式を採用した。

キャリアシートは、「キャリアノート」に貼り付けて蓄積していくこととした。蓄積したシートを、次の単元の前に読み返すことで、自分の成長や変容を確かめ、次に向かう意欲を高めることができる。

＜北中学校の生徒用キャリアシート＞

北中学校でも各教科で授業実践に取り組む中で、「生徒用キャリアシート」(図7)を活用した。これは、一種のポートフォリオのようなシートである。まず、学習活動を始めるときに、この単元や題材で高めたい姿を生徒に示し、この学習活動終了後、どのような姿になっていたか(最終的なゴールの姿)を設定させる。(※I)そして、指導計画に沿って、高めたい姿を見取るための「場」や「時間」の支援や工夫を設定し、生徒にめあてと振り返りを記入させていく。



＜図7＞ 生徒用キャリアシート(北中)

そして、全ての学習活動終了後に、はじめに設定した姿に近づいたかどうか、高まった力はあるかどうかを振り返らせた。このシートは回収し、担当教師がコメントを添えて返却し、生徒用キャリアシート専用のファイルに綴じ込んでいる。

ここで大切なことは、教師からのコメントである。必ず、生徒一人一人の学習活動を、高めたい姿に照らし合わせてコメントを書くこととした。例えば、「自分の考えをしっかりと表現できている姿が見られました。このような姿は、これから生きていく上でとても大切な姿です。この姿を様々な学習や生活の中に生かして行ってください。」のように、「今の授業がつながる未来」を強く意識したコメントとした。(※J)

各教科、単元ごとに生徒用キャリアシートで振り返りを行ってきた生徒が、学習してきたことの積み重ねやつながりが感じられることが、さらなる意欲の向上につながると考えて取り入れたものが「学びつなぎシート」(図8)である。

専用のファイルに綴じ込んで蓄積してきた生徒用キャリアシートを振り返りながら、該当する「姿」と学習時期の重なった箇所に教科と単元名を記入する。そうすることで、教科や単元を超えた6つの姿によるつながりが見えてくるのである。その際、学校行事や職場体験学習とのつながりにも触れることで、今まで学んできた学習が学校生活や日常生活にもつながっていることに気づくと考えた。この活動を行った生徒からは、「今までキャリアシートの意味をあまり理解できずにいたけれど、今回の学習が自分達で考えてつくるものの役に立ったり、よりよい工夫をしたりするために大事なことだと思った。」等の感想が得られた。

学びつなぎシート【1年】 『6つの姿』						
月	自分の考えをもち表現する姿	目標を定めて計画を作る姿	課題に粘り強く取り組む姿	進んで人とかわりをもつ姿	役割を自覚し、それを果たす姿	よりよい生き方を求める姿
	多様な考えに触れ、自分の考えを見直し、自信をもって表現している姿	目標達成に向けての課題に気づき、解決のための有効な計画(見通し)を立案している姿	立案・計画で生じた課題を適切に処理し、様々な視点から解決に向けて粘り強く取り組んでいる姿	他者に働きかけながら、互いに補充し合い、協力して行動している姿	様々な場面で自己の役割を自覚し、地域社会や実生活に責任をもって貢献している姿	多様な生き方に関する情報を積極的に取り入れ、自分の将来を形成している姿
6月	国「フリップを用いて報告する」					
7月	英「自己紹介をしよう」		数「文字式を利用して文章問題を解く」	理「種子植物のなかまの体「バレーボール」		
9月	国「芸術作品の鑑賞文を書く」				・スボログ大会	
					・スボログ	・学習発表

＜図8＞ 学びつなぎシート(北中)

6 研究のまとめ

(1) 成果

<教師用キャリアシートに関して>

キャリア教育年間指導計画に代わるものとして、教師用キャリアシートを作成したことは、キャリア教育を意図的・計画的に行う上で効果的であった。キャリア教育は全教育課程を通して実践されるものだとされている。このことは、どの教科・領域でも行うことが可能である反面、どの教科・領域でも扱わなくても困らないということになる。そこで、どの教科・領域の、どの単元で実施するかを「自ら決めて宣言する」という教師用キャリアシートは、実践を確かなものにするために必要であった。

また、キャリア教育の視点を加えた計画を自ら立てることで、児童生徒に身に付けさせたい力や目指す姿を念頭に置きながら、授業の工夫・改善を行うことにつながった。計画時のみならず、毎時間の取組を振り返って記録する形にしたことで、次時の課題を意識して学習を進めることができるとともに、実践したことの成果や課題を次年度に引き継ぐことにもつながった。

さらに、年度始めに計画を立てることで、異学年交流や小中連携、地域連携を意識した取組を、先を見通して準備することができた。これまで行っていた同様の交流も児童生徒の自立を促すための手立てとして、意味づけられることになり、目的を明確化することができた。

<児童生徒用キャリアシートに関して>

キャリア教育を実践する単元において、児童生徒用キャリアシートによって振り返りをさせたことも、大きな成果を得ることができた。児童生徒が常に自らの「ゴールの姿」をイメージし、目標に向かって活動することで、主体的に行動し、工夫して物事を進める姿が見られるようになった。児童生徒は、自己の成長や変容を振り返って実感することができ、「自己肯定感」や「自己有用感」を育むことにつながった。

また、教師にとっては、児童生徒用キャリアシートに振り返りを書かせることによって、児童生徒の意識がゴールに向けられているかどうかを判断したり、自身の成長や変容をどう感じているかを見取ったりすることができ、学習計画や学習活動の修正、学指導の評価・改善に役立てることができた。

さらに、中学校では生徒用キャリアシートに教師がコメントを書いたり、生徒が学びつなぎシートを完成させたりすることによって、生徒自身が気づけなかった自身の成長にも気づかせることができた。

(2) 課題

児童生徒が学習活動を進めていく過程で、身に付けさせたい力に意識が向かっていない児童生徒やキャリア教育のねらいに照らして十分に達成できていない児童生徒への効果的な支援の方法を考えていく必要がある。

次年度以降、キャリア教育をどのような形で継続していくか検討の余地がある。教師用キャリアシートを継続して活用していくには、次年度の教職員へ両校のキャリア教育の考え方を引き継いでいく必要もある。形だけでなく、意味のあるキャリア教育として継続していくためにも、今後の進め方を検討していく必要がある。

小野小・北中キャリア教育 グランドデザイン

志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒の育成

社会的・職業的自立

自らの考えをもち、
目標に向かって、
主体的に活動できる生徒

北中学校

自分の考えをもち表現する姿

目標を定めて計画を作る姿

課題に粘り強く取り組む姿

進んで人とかわりをもつ姿

役割を自覚し、それを果たす姿

よりよい生き方を求め続ける姿

能力

汎用的

基礎的

自分の可能性を広げる力

目標に挑戦する心

粘り強く努力する力

人や社会と関わる力

役立つ喜びを感じる心

みんなといっしょに
よりよく生きる児童

小野小学校

児童・生徒の実態

家庭

地域社会

【北中学校区のキャリア教育の重点目標】
志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒の育成

- 【キャリア教育にかかわる児童の実態】
- 自分をさらに伸ばしていくことを知らず、発展性に乏しい
 - より高い目標達成への欲がない
 - 経過や過程を重視せず、結果だけを帳尻合わせする傾向がある
 - 枠から外れたがらず内弁慶
 - 考えを人前で話すことが苦手

【小野小学校キャリア教育の目標】
みんなといっしょによりよく生きる
子どもたちを育む

【北中学校キャリア教育の目標】
自らの考えをもち、目標に向かって、主体的に活動できる生徒の育成

- 【キャリア教育にかかわる生徒の実態】
- 自分に自信がなく、人前で話すことが不得手
 - 自らの考えで行動する力に欠ける
 - 困難に立ち向かう意思力が乏しい
 - 他者と交流することが苦手
 - 言動が受動的で、控えめで遠慮がち

【小野小】 児童が身に付けていく力や心

自分の可能性を広げる力	高い目標に挑戦する心	粘り強く努力する力	人や社会に働きかける力	役立つ喜びを感じる心	
自分を見つめ、自分の興味やこだわり、可能性を広げていく力	高い目標や知的好奇心をもち、前向きに考えて、創造し挑戦する力	粘り強く努力して、達成感を得たり、失敗から学んだりする力	人や社会と積極的にかかわり、適応したり働きかけたりする力	自分の役割を果たし、人や社会のために役立つ喜びを感じる力	
自分の考えをもち表現する姿	目標を定めて計画を作る姿	課題に粘り強く取り組む姿	進んで人とかかわりをもつ姿	役割を自覚しそれを果たす姿	よりよい生き方を求め続ける姿
多様な考えに触れ、自分の考えを見直し、自信をもって表現している姿	目標達成に向けての課題に気づき、解決のために有効な計画(見通し)を立案している姿	立案・計画で生じた課題を適切に処理し、様々な視点から解決に向けて粘り強く取り組んでいる姿	他者に働きかけながら、互いに補完し合い、協力して行動している姿	様々な場面で自己の役割を自覚し、地域社会や実生活に責任をもって貢献している姿	多様な生き方に関する情報を取捨選択し、自分の将来を形成している姿

【北中】 生徒が高めるべき姿

各学年の重点目標（児童・生徒のゴールの姿）

小低	●自分のできることや得意なことを増やす	●上級生や上手な子を手本にして挑戦する	●自分で考えたり決めたりしたことを最後までがんばる	●自分の気持ちや考えを伝えて、協力して活動する	●自分の役割がわかり、活動に取り組む	
	●いろいろなことに興味をもち、好きなことに夢中になる	●目標をはっきりとさせ、難しいことでも自分らしく挑戦する	●失敗をおそれずいろいろな方法で、目標に向けて努力する	●ほかの学年や地域の人とのつきあい方を知り、進んでかかわる	●学級の一員として役割を果たし、人や学校に役立つことをする	
	●選んだことや決めたことにこだわりや自信をもって取り組む	●目標を高く掲げ、自分で課題をもち、解決のために工夫して行動する	●苦手なことや初めて体験することに失敗を恐れず取り組み、自分の行動をふり返って成長を実感する	●進んで地域とかかわり、知識を得、技能を高め、思いを生かす	●理想の実現に向け、リーダーシップをとったり役割を果たしたりすることで、人の喜びを自分の喜びと感じる	
中学校	●多様な考えに触れることで、自分の考えを見直し、新たな自分の考えをもっている。そして、その考えを自信をもって様々な形で表現している	●目標を定め、その目標達成に向けて、様々な課題に気づいている。そして、課題解決のために有効な計画(見通し)を考え、立案している	●立案・計画の過程で生じた課題を適切に処理している。そして課題解決に向けて、あきらめることなく、粘り強く最後まで取り組んでいる	●他者に積極的に働きかけながら、互いに足りない部分を補完し合っている。そして、お互いに、助け合い、協力しながら、行動している	●様々な場面で自己の役割を自覚し、その役割を果たしている。その上で、自ら積極的に地域社会や実生活とかかわり合いをもっている	●生き方に関する多様な情報から、自分に適した情報を取捨選択している。そして、自分の将来について考え、暫定的な将来設計を考えている

学校教育目標

ふるさとに親しみ、思いやりの心もち、かしこく判断し、たくましく生きる子どもを育てる

【キャリア教育にかかわる児童の実態】

- 自分をさらに伸ばしていくことを知らず、発展性に乏しい
- より高い目標達成への欲がない
- 経過や過程を重視せず、結果だけを帳尻合わせする傾向がある
- 枠から外れたがらす内弁慶
- 考えを人前で話すことが苦手

【めざす児童像】

やさしい子・かしこい子・たくましい子

【小野地域のキャリア教育の重点目標】

志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒の育成

【小野小のキャリア教育の目標】

みんなといっしょによりよく生きる子どもたちを育む

【めざす教師像】

- 常に学ぶ姿勢をもつ教職員
- 児童と学びの喜びが共有できる心をもつ教職員
- 児童の成長を第一に考える教職員

児童が身に付けていく力や心

好きなことやできることを増やし、自分の可能性を広げていく力

高い目標や知的好奇心をもち、前向きに考えて、創造し挑戦する心

粘り強く努力して、達成感を得たり、失敗から学んだりする力

人や社会と積極的にかかわり、適応したり働きかけたりする力

自分の役割を果たし、人や社会のために役立つ喜びを感じる心

教科・領域を貫くキャリア教育実践上の視点

「自分事」として課題をとらえる動機づけ

- 自分を見つめ自分と向き合う場面
- 選択と自己決定の場や時間
- 「～たい」を見つけ、こだわり続ける意欲付け

- さらに高い目標をめざす意欲付け
- 憧れや理想のモデルに触れる機会
- 探究心をくすぐる場や時間

- 課題に対し試行錯誤しながら取り組む時間
- 再チャレンジの機会
- 成長と変容を振り返る場面づくり

- 異学年交流や地域とつながる活動
- かかわり方のスキルや自信をつける時間
- かかわろうとする思いやかわった成果を生かす場面

- 役割を明確化し、分担・協力する場面
- プロセスの可視化
- 成果を実感し共有する時間

本物や本質に触れる豊かな体験活動・ゴールがイメージできる単元構成

自分の学びを振り返る「内省」の時間

【各教科】

- 自分の能力や適正を知り、それらを伸ばす意欲を育むとともに、基礎学力の向上を図って自己肯定感を育む
- 課題解決的な学習形態を工夫し、児童自らが考えたり判断したりする力を養う
- 友だちと学び合う過程を重視し、力を合わせ解決することのよさを味わわせる

【総合的な学習の時間】

- 自ら課題を見つけ、追究し解決していく学び方を身に付けさせる
- 地域の自然や社会、人々と主体的に関わる経験を通して、地域でよりよく生きようとする態度を育てる

各学年の重点目標

【低学年】

- 自分のできることや得意なことを増やす
- 上級生や上手な子を手本にして挑戦する
- 自分で考えたり決めたりしたことを最後までがんばる
- 自分の気持ちや考えを伝えて、協力して活動する
- 自分の役割がわかり、活動に取り組む

【中学年】

- いろいろなことに興味をもち、好きなことに夢中になる
- 目標をはっきりとさせ、難しいことでも自分らしく挑戦する
- 失敗をおそれずいろいろな方法で、目標に向けて努力する
- ほかの学年や地域の人とのつきあい方を知り、進んでかかわる
- 学級の一員として役割を果たし、人や学校に役立つことをする

【高学年】

- 選んだことや決めたことにこだわりや自信をもって取り組む
- 目標を高く掲げ、自分で課題をもち、解決のために工夫して行動する
- 苦手なことや初めて体験することに失敗を恐れず取り組み、自分の行動を振り返って成長を実感する
- 進んで地域とかかわり、知識を得、技能を高め、思いを生かす
- 理想の実現に向け、リーダーシップをとったり役割を果たしたりすることで、人の喜びを自分の喜びと感じる

【道徳】

- 友達のよさを認め、互いに助け合う心情を養う
- 特徴を知り、良いところをのびしてこうとする心情を養う
- 働くことの意義や喜びに気付かせ公共心を養う

【特別活動】

- 学級活動や児童会活動では、学校生活の向上のために、話し合い活動を充実させ、自分の役割を果たす態度を育む
- クラブ活動では、同好の仲間と活動を作り出す経験を通して、個性の伸長と協力を育む
- 学校行事では、主体的な関わりと活動の振り返りを通して、喜びや達成感を味わわせ、自分の成長を意識させる

【北中学校との連携】

- キャリア教育で身に付けさせたい力をつなぎ、9年間で成長を促す
- 児童生徒用キャリアシートに、自分の成長や変容を記録する
- 児童生徒が共に参加する学校行事を設ける

キャリア教育全体計画

富岡市立北中学校

<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領 群馬県学校教育の指針「キャリア教育の推進」 第2期群馬県教育振興基本計画 「キャリア教育の充実」 富岡市の学校教育「キャリア教育の取組」 文部科学省「キャリア教育の手引き」 	<p>【学校教育目標】 豊かな感性と自ら学ぶ意欲をもち、 自他を生かしながら活躍できる社会人の育成 ～ 感じ 考え 行動する ～</p> <p>創造 疑問をもとに、生きて働く知恵を創り出す生徒</p> <p>友愛 自分の役割を果たし、人のために尽くす生徒</p> <p>健康 強い心と体をもち、自分を信じて挑戦し続ける生徒</p>	<p>【生徒の実態】 生徒は、小学校からほぼ同じメンバーで生活してきているためお互いに気心が知れており、全学年を通して落ち着いた生活を送っている。しかし、その反面控えめで、困難に立ち向かう姿勢や自己を表現する姿勢に物足りない面がある。</p>
--	---	---

<p>【目指す学校像】 たくましく生きる生徒を目指した特色ある教育活動を計画的に進める学校</p>	<p>【目指す教師像】 個々の生徒理解に努め、個性の伸長を目指して的確な指導のできる教師</p>
---	--

【北中校区のキャリア教育の目標】 志をもち、自らの生き方を切り拓く児童生徒の育成

【本校のキャリア教育の目標】 自らの考えをもち、目標に向かって、主体的に活動できる生徒の育成

【北中校区のキャリア教育との関連】

<p>志をもち</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを通して、自分の考えをもち自信をもって行動できる生徒 将来の目標を立て、計画的に学習に取り組める生徒
-------------	--

学年	【第1学年の重点目標】	【第2学年の重点目標】	【第3学年の重点目標】
志をもち	自己を理解し、他者を尊重し、集団の一員として行動がとれる生徒を育てる	集団の中での自分の役割を理解し、他者とかかわりながら役割を果たすことのできる生徒を育てる	人間関係を円滑に進めるとともに責任のある行動のとれる生徒を育てる
生き方を切り拓く	自己の適性や可能性を理解し、将来の夢や目標がもてる生徒を育てる	将来の夢や目標に向けて、今すべきことの見通しがもてる生徒を育てる	将来の夢や目標に向けた取組の困難を理解し、克服するために努力できる生徒を育てる
具体的な体験活動	<ul style="list-style-type: none"> 職業調べ 職業インタビュー 生徒会、係、当番活動・自問活動（読書、清掃、ノーチャイム・ノー号令） 地域運動会の手伝い・地域教会への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験活動 高校調べ ようこそ先輩 	<ul style="list-style-type: none"> 高校調べ 高校訪問 企業出前授業 校外生徒会奉仕活動（公会堂・地域清掃） 地域人材の活用（タマネギ作り、絵手紙教室等）

様々な学習を通して、高めるべき“6つの姿”

自分と向き合う	自分を進める	自分を広げる	自分から働きかける	自分の役割を果たす	自分の未来に向かう
自分の考えをもち表現する姿	目標を定めて計画を作る姿	課題に粘り強く取り組む姿	進んで人とかかわりをもつ姿	役割を自覚しそれを果たす姿	よりよい生き方を求め続ける姿
多様な考えにふれ、自分の考えを見直し自信をもって表現している姿	目標達成に向けての課題に気づき、解決のために有効な計画（見通し）を立案している姿	立案・計画で生じた課題を適切に処理し、様々な視点から解決に向けて粘り強く取り組んでいる姿	他者に働きかけながら互いに補完し合い、協力して行動している姿	様々な場面で自己の役割を自覚し、地域社会や実生活に責任をもって貢献している姿	多様な生き方に関する情報を取捨選択し、自分の将来を形成している姿

キャリア教育実践にかかわる場

多様な考えにふれる場面・自分の考えをもち時間・自分の考えを見直す時間・自分の考えを発表している場面	目標達成に向けて様々な課題に気づく場面・課題解決法を考える時間・見通しをもつ時間・有効な計画を立てる場面	課題を適切に処理する場面・課題解決に向け継続して取り組む時間・達成感を感じる時間	他者に積極的に働きかける場面・お互いに助け合う場面・お互いに協力して活動している場面	自ら地域社会や実生活とかかわりをもつ場面・自己の役割を自覚する時間・自己の役割を果たす場面	様々な情報にふれる場面・情報を取捨選択する時間・将来に向け自分の果たす役割や協力することの大切さに気づく場面
---	--	--	--	---	--

教科等におけるキャリア教育の視点

<p>【各教科】学習活動とおして、自分の考えを明らかにしている</p> <p>【道徳】自他の思いを理解し、生活をより良くするための考えをもっている</p> <p>【特別活動】自他の考えを理解し、よりよい生活の方法を考えている</p> <p>【総合】学習をとおして、自分の考えを明らかにし、活動している</p>	<p>【各教科】学習課題の解決のための方策と、その計画を作っている</p> <p>【道徳】確かな考えをもち、進んで行動する意欲を高めている</p> <p>【特別活動】個人や集団の課題解決に向けての方策と、その計画を立てている</p> <p>【総合】様々なことに関心をもち課題解決に向けての方策と計画を立てている</p>	<p>【各教科】学習のめあてや活動内容を理解し、粘り強く課題解決に取り組んでいる</p> <p>【道徳】より高い価値に向かって自己の考えをまとめ、実践している</p> <p>【特別活動】個人や集団で見出した課題解決のための方策を実行している</p> <p>【総合】自ら設定した課題解決に向け、粘り強く取り組んでいる</p>	<p>【各教科】課題解決に向け、班活動や話し合い活動をとおして仲間と協力している</p> <p>【道徳】お互いの考えを共有し、他者の様々な考えを受け入れている</p> <p>【特別活動】今の学校生活を改善するために、仲間と協力している</p> <p>【総合】よりよい課題解決に向けて、仲間と共同して、行動している</p>	<p>【各教科】学習内容が、自分の生活と深く関わっていることを知ろうとしている</p> <p>【道徳】地域の実情を知り、地域や学校を愛し、実生活での役割を果たしている</p> <p>【特別活動】学校内だけでなく、地域や実生活をより良くするために行動している</p> <p>【総合】地域や学校の特徴を知り、自ら働きかけている</p> <p>・地域、小野小との連携</p>	<p>【各教科】毎日の学習が将来につながっていることを意識して習得に向け努力している</p> <p>【道徳】よりよい社会を築くために様々な意見や考えを取り入れ行動している</p> <p>【特別活動】将来の目標に向け今すべきことを明らかにして取り組んでいる</p> <p>【総合】自らの生き方と課題とのかわりを見出し学ぶ目的を考え実行している</p>
--	---	---	--	--	--

重点目標（ゴールの姿）

多様な考えに触れることで、自分の考えを見直し、新たな自分の考えをもっている。そして、その考えを自信をもって様々な形で表現している。	目標を定め、その目標達成に向けて、様々な課題に気づいている。そして、課題解決のために有効な計画（見通し）を考え、立案している。	立案・計画の過程で生じた課題を適切に処理している。そして、様々な視点から課題解決に向けてあきらめることなく粘り強く最後まで取り組んでいる。	他者に積極的に働きかけながら、互いに足りない部分を補完し合っている。そして、お互いに、助け合い、協力し合いながら、行動している。	様々な場面で自己の役割を自覚し、その役割を果たしている。その上で、自ら積極的に地域社会や実生活とかかわり合いをもっている。	生き方に関する多様な情報をから、自分に適した情報を取捨選択している。そして、自分の将来について考え、暫定的な将来設計を考えている。
---	---	---	--	---	---

【小野小学校との連携】

・「北中スプロク大会」「小野小焼きいも集会」「小中いじめ防止子ども会議」などの交流活動・体験活動とおして、自分の役割を果たすとともに、中学生として、小学生の手本となりながら、協力して活動することの意義を学ぶ

【保護者や地域との連携】

・「懇談会」「PTA活動」「学校通信」など、保護者との接点においてキャリア教育の共通理解を深める

・「キャリア教育地域推進協議会」において、学校の取組を理解してもらい、地域での子どもたちの活動の受け入れについて協力体制を整える

キャリア・シート【教師用】6年

身に付けたい力	好きなことや得意なことを増やし、自分の可能性を開いていく力	高い目標や知的好奇心をもち、前向きに考えて、創造し挑戦する心	粘り強く努力したり、達成感を得たり、失敗から学んだりする力	人や社会と積極的にかかわり、導いたり働きかけたりする力	自分の役割を果たし、人の喜びを自分の喜びに感じる心
各学年の重点目標	選んだことや決めたことにこだわりや自信をもつて取り締り	目標を高く掲げ、自分で課題をもち、解決のために工夫して行動する	苦手なことや初めて体験することに失敗を恐れず取り組み、自分の行動を振り返って成長を実感する	進んで地域とかがわり、知識を得、技能を高め、思いを生かす	理想の実現に向け、リーダーシップをとったり役割を果たしたりすることで、人の喜びを自分の喜びと感じる
キャリア教育の視点	自分を見つめ自分と向き合う場面 ・選択と自己決定の場や時間 ・「〜たい」を見つめ、こだわり続ける意欲付け	・さらに高い目標をめざす意欲付け ・憧れや理想のモデルに触れる機会 ・探究心をくすぐる場や時間	・課題に対し試行錯誤しながら取り組む時間 ・再チャレンジの機会 ・成長と変化を振り返る場面づくり	・異学年交流や地域とつながる活動 ・かかわりのスキルや自信をつける時間 ・かかわろうとする思いやかかわりつつ成長を生かす場面	・役割を明確化し、分担・協力する場面 ・プロセスの可視化 ・成果を褒め賞し共有する時間
指導内容指導単元	国語「私と本」(6月)	総合「自分たちの手で里山を生かそう」(一学期・二学期)	体育「表現運動」(9月)	国語・総合「ようこそ、私たちの町へ」(7・8・11月)	総合「たてわり班のきずなを深めよう」(11・12月)
◆手立て(視点)	◆これまでに出会った本を振り返り、自分と本の関わりについて考える(自分を気づかせる自分と向き合う場面) ◆読書記録を打ち出したことにより、客観的に振り返ることができた	◆売れた里山の現状を見に行き、今後の進め方を話し合う(自分事として課題をとらえる動機付け) ◆ウォークラリーに使うかどうかは別として、整った方がよいと意見がまとまった	◆昨年度までの表現を振り返り、今年度の方向性を決める ◆挑戦したいという意見が多く、話し合いの結果、組み立て表現の内容を実感することで意識した	◆小野のよさをブレンドしてミニシングで話し合い、パンフレットを作ることを決める ◆小野で生まれ育った児童にとって、よさを考えるのは難しくあまり多くのよさが出なかった	◆一学期のたてわり班運動を振り返らせる(自分事として課題をとらえる動機付け) ◆一学期末のたてわり遊びの遊びの画像を見せることで、関わり方を振り返り、課題を持つことができた
◆児童の姿の記録	◆いちばん心に残っている本について考え、推薦文を書いて発信するプロジェクトを立ち上げる(自分事として課題をとらえる動機付け) ◆心に残っている本のよさを「いいね」カードに整理させたが、市立図書館への掲示という具体的なプロジェクトをここで提示すれば、必然性がより高まったと思う	◆里山を整備する(本物や本質に触れる豊かな体験活動) ◆1本の道を通通させられたことで、「自分たちでできる」という見通しと意欲をもった ◆ウォークラリーに使うためにどうしたらよいか話し合う(さらに高い目標をめざす意欲付け) ◆地域や他学年の力を借りず、自分たちで全てやりたいという意見が大半を占めた	◆テーマや内容の話し合いと基本的な技の練習を同時進行で行う ◆練習の様子は動画で撮影し、前回の動きを振り返ってから練習に取り組みようにする ◆自分の姿を見ることが、意欲付けとなり、課題も見つかってきた	◆小野のよさを地域の人に聞く ◆小野に転居してきた人や小野に時々来ている人などを深掘りして聞くようにすることに決めた	◆二学期の行事でのかかわり方を考えさせる ◆焼きいも集会での活動の仕方やたてわり遊びの方法を工夫することができた
◆「森へ」を読んで、作品のよさについて話し合うとともに、いちばん心に残っている本の紹介のしかたを学ぶ	◆グループ読書を受けて、各自の本についてのよさを意見交流し、自分が読みたい手に伝えたいことを明確にする(「〜たい」を見つめ、こだわり続ける意欲付け) ◆「いいね」カードを使って話し合いをさせたことにより、よさを明確にすることができたが、動機付けが甘かったため、突っ込んだ意見交流ができていない場面もあった	◆里山の整備(2回目)を行う ◆整備する場所を絞り、3つのルートを使えるように整備できた	◆児童がグループで制作する場面を撮影する(課題に対して試行錯誤しながら取り組む場面) ◆郵便生活を実現するために、三拍子の曲に合わせてどのような動きをすればいいか助言し、表現に生かしていた	◆実際のパンフレットを参考に内容や構成を考える	◆仕事の仕方やコツの教え方を話し合う ◆一年生の生活科学習を企画を提案する ◆一年生が6年生の力を借りて、お手伝いを上達させたいと言っていることを伝え、1年生をヒーローにしよう大作戦1を行うことになった
◆図書館員さんから、推薦文の書き方を教わり、生かす(本物や本質に触れる豊かな体験活動)	◆図書館員さんが書いた推薦文の例を読んだり、自分が書いた推薦文にアドバイスをもらったりして、よりよい文を書こうとする意欲を持つことが出来た。	◆里山の活用方法を話し合い、調べを試してみる(探究心をくすぐる場や時間) ◆竹の活用について調べ、流しそうめん台、竹製ハンチなどを作ってみて、難しいことに気がついた	◆運動会で発表する ◆観客の表情やよめきなどから、達成感を得た	◆地球に出て取材をする ◆取材先の地域の方々に快く受け入れられてもらい、満足した様子が見られた	◆1年生から報告を受ける ◆1年生の達成感を高めるために、報告を聞いて褒めたり感心したりすることができた
◆推薦文を推敲し、清書をする ◆図書館に掲示してもらい、読んでもらうこと前提にすることで、清書に力がもった	◆推薦文を推敲し、清書をする ◆図書館に掲示してもらい、読んでもらうこと前提にすることで、清書に力がもった	◆里山の竹の活用方法を再検討する ◆竹製プラランターを作った地域を明るくする「小野笑顔満開プロジェクト」を発足させた	◆パンフレットを書く ◆取材内容に不足があったら、再挑戦が難しくなった	◆パンフレットを活用する方法を考える ◆地域の商店や取材した場所に置いてもらうことにし、そのためにしっかりと書こうとする意欲が生まれた。	
◆推薦文が図書館に掲示されたことを知らせる図書館便りに紹介し、達成感を得させる ◆歌声が上がった	◆推薦文が図書館に掲示されたことを知らせる図書館便りに紹介し、達成感を得させる ◆歌声が上がった	◆竹製プラランターの作品を掲げて意欲付けをする(憧れや理想のモデルに触れる機会) ◆竹のプラランターを調べた児童の質問や、校長先生の試作品を見てイメージをもち、意欲的に制作した	◆パンフレットを活用する方法を考える ◆小野公民館から、高岡製糸場近くで行われる「軽トララック市」にパンフレットを提供してほしいという依頼に即えることになり、さらに強い動機が生まれた	◆パンフレットを活用する方法を考える ◆高岡製糸場まえの軽トラ市でパンフレットの配布を行う ◆100部を配りきり、受け取ってくれた人と言葉を交わすなど、かかわりを持つことができた	
キャリア・シート最終的な児童の姿を写した一枚	自分が選んだ本のよさにこだわりをもち、友達に説明する姿	里山から切り出し出した竹を使ったプラランターに、思いを込めて花を植える姿	グループで仲良くも試行錯誤しながら、音楽に合った動きを創作する姿	作ったパンフレットを風景写真に配り、自信をもって話しかける姿	1年生の喜びや達成感を自分の喜びに感じている姿

6つの姿		自分の考えをもち表現する姿	目標を定めて計画を作る姿	課題に粘り強く取り組む姿	進んで人とかわりをもつ姿	役割を自覚しそれを果たす姿	よりよい生き方を求め続ける姿	
教科の重点目標 (学習指導要領)		話す・聞く・書く・読むことで自分の考えを深めようとする態度を育てる	目的や意図に応じ、必要な情報を集め活用する力を育てる	目的や意図に応じ、資料や表現などから読み力を育てる	相手や場に応じて、話したり聞いたりする力を育てる	国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる		
キャリア教育の視点		話し合い・書く・読むことを通して得た自分の考えを伝えている	自分の考えを伝えるために必要な情報を集め、表現を工夫している	資料や表現などを自分の考えの根拠にして作品を読んでいる	場の状況や相手の反応に応じて話したり聞いたりしたことを自分の表現に生かしている	作品や活動を通して、自分の生き方を考えている		
1年	6月④	アップを用いて報告する	事実と意見を区別して話している。					
		○指導内容(手立て・支援)	危険なところを事実、改善策を意見として考えるようにする。					
		◇生徒の姿	聞き手を意識しながら、自分の意見を話すことができた。					
		□改善点(評価)	アップ作成に時間がかかったので、時間短縮を図りたい。					
	9月④	芸術作品を鑑賞する	芸術作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書いている。					
		○指導内容(手立て・支援)	色や構図など、観点を決めて文章に書くようにする。					
		◇生徒の姿	五感を基にすることで、根拠が明確な鑑賞文になった。					
		□改善点(評価)	第一印象に何を書くか、から指導する必要がある。					
	11月②	意見文を読み合う				意見文を互いに読み合い、文章のよさを発見しあっている。		
		○指導内容(手立て・支援)				共通点や相違点を見つけ良い点や参考にした良い点を交流する。		
		◇生徒の姿				協力して文章を見直すことで、よりよい文章になった。		
		□改善点(評価)				見直す観点をもち明確にすることが大切。		
2月⑦	少年の日の思い出	自分のものの見方や考え方を広げ、考えを書いている。						
	○指導内容(手立て・支援)	語り手に着目することで僕と自分のものの見方を関連づける。						
	◇生徒の姿							
	□改善点(評価)							
最終的な1年生の姿		観点を絞って自分の考えを伝えている。	計画に沿って、話し合いなどの準備をしている。	描写に着目して、作品を読んでいる。	話し合いや交流の場で、意見を言ったり聞いたりしている。	自分を見つめ、生き方を深めていくことの大切さを考えている。		
2年	6月⑤	図表を用いて提案する	資料を用いて、構成や展開を考えて話している。					
		○指導内容(手立て・支援)	資料を作成していく過程で自分の立場をはっきりさせていく。					
		◇生徒の姿	資料を提示し、自分の立場を明確にして話すことができた。					
		□改善点(評価)	適切な資料の選択を丁寧に指導していく必要がある。					
	11月⑤	新聞の投稿記事を書く	自分の立場にそって投稿記事を書いている。					
		○指導内容(手立て・支援)	図を用いながら根拠を挙げ、思考を整理する。					
		◇生徒の姿	思考を整理することで、論理的な意見文を書くことができた。					
		□改善点(評価)	資料を読み取るための支援をもち考える必要がある。					
	12月③	意見文を読み合う				互いの意見文を読み合い、自分の意見文に生かしている。		
		○指導内容(手立て・支援)				交流カードに読み合う視点を記入しておく。		
		◇生徒の姿				他の人の目を加えることで、意見に客観性が生まれた。		
		□改善点(評価)				読み合う観点を生徒から出させてもよい。		
1月⑦	走れメロス	主人公の考え方について根拠を挙げて自分の考えを書いている。						
	○指導内容(手立て・支援)	描写や会話に着目して、登場人物の人物像の変化を捉える。						
	◇生徒の姿							
	□改善点(評価)							
最終的な2年生の姿		作品を通して、根拠を挙げながら自分の考えを書いている。	聞き手や読み手に伝わるように、発表方法や文章を工夫している。	描写の効果や登場人物の言動に着目して、作品を読んでいる。	観点に絞って話し合いをしている。	現代と過去を比べながら、自分の生き方を考えている。		
3年	6月⑤	「新しい博物学」の時代	理系と文系の知識の関係について自分の意見をまとめている。					
		○指導内容(手立て・支援)	理系と文系の知識が合わさった具体例を挙げ理解を深める。					
		◇生徒の姿	理系と文系の例を挙げながら意見文を書くことができた。					
		□改善点(評価)	具体例をもっと交流する必要がある。					
	11月⑦	故郷	人間と社会との関わりについて考え、自分の意見をもっている。					
		○指導内容(手立て・支援)	登場人物や時代背景を評価しながら読む。					
		◇生徒の姿	いろいろな視点から作品を読むことができた。					
		□改善点(評価)	時代背景まで視野に入れることが難しい。					
	1月⑤	自己PR文を読み合う	経験を整理し、スピーチで自分のよさを伝えている。					
		○指導内容(手立て・支援)	横断面接続で交流しながら、自分のPR文を深める。					
		◇生徒の姿						
		□改善点(評価)						
2月⑤	「対話力」とは何か				今後の社会で求められる対話力をグループで考え実践している。			
	○指導内容(手立て・支援)				多数決によらない、模擬国際会議を開き、対話を進める。			
	◇生徒の姿							
	□改善点(評価)							
最終的な3年生の姿		社会生活の中から話題を決め、自分のものの見方や考え方を深めている。	既習の学習事項を活用して、適切な表現方法を用いて伝えている。	作者や話し手の意図を考えながら、読んだり話したりしている。	意見交流したことをもとに、自分の考えを深めている。	社会に目を向け自分の生き方をよりよいものとしようとしている。		

《授業実践について》

＜富岡市立小野小学校＞1年 生活科 「自分でできるよ」

【児童が身に付けていく力や心】

自分の役割を果たし、人や社会のために役立つ喜びを感じる心

【低学年でめざす児童の姿】

自分の役割がわかり、活動に取り組む

【キャリア発達を促す手立て】

- ・『自分でできるお手伝いをする』を展開することで、家族を喜ばせよう大作戦』を展開することで、自分事として意欲的に取り組めるようにする。(「自分事」として課題をとらえる動機づけ)
- ・6年生にコツを聞き、やり方を教えてもらい、そのお手伝いを上手にできることで、お手伝いをした後の達成感や自信を持てるようにする。(本物や本質に触れる豊かな体験活動)
- ・「6年生への報告会」を開き、成果を実感し共有することで、役割を果たす喜びを知り、続けて活動に取り組めるようにする。(成果を実感し共有する時間)

時	単元の主な流れ	キャリア教育 実施上の視点	活動の様子
1	◆自分の一日を見つめよう ・家庭での自分の1日を振り返る。 ＜◎自分の1日の生活を調べよう＞	●自分の1日の生活に思い出し、思い出しして話したりメモを書いたりした。 ●家で、自分の1日の生活を調べて、ワークシートに記入してきた。	●家で記入してきたワークシートを話し合いながら完成させることで、自分が毎日どんなことをして生きているかがわかった。 ●友だちと、ワークシートをもとにして、見つけたことや気づいたことを話し合い、食事や睡眠など、規則正しく健康な生活をするこの大切さに気づいた。
2	・調べたことをもとに、自分の1日の生活をワークシートに書く。		
3	・友だちと、ワークシートをもとにして、見つけたことや気づいたことを話し合う。		
4	◆自分でできることをしよう ・家の人がしていることや、家族を振り返る。 ＜◎家の人がしていることや、家の人がもっていることを調べる。＞		●自分の1日の生活の中で、家の人がしていることや自分がしていることがあることに気づいた。 ●家で、家の人がしていることや自分がしていることを調べる。「家の人の仕事調べ」に記録してきた。
5	・調べたことを伝え合う。 そして、伝え合うことで、自分ができていることや家族を喜ばせようという気持ちになる。	自分事として課題をとらえる動機づけ	●調べたことを基に、家庭生活の中で、自分でできることがあることに気づいて、それを友だちと話し合った。 ●1年生として、何でもしてもらってばかりではなく、家族のためにお手伝いをして家族に「ありがとう」を言わせる作戦を立てることにした。
『自分でできるお手伝いをする』展開			
6	◆自分でできるお手伝いをする ことで、家族を喜ばせよう大作戦ステージ1 ・家庭で自分ができること、家族を喜ばせようことを考え、実施する計画を立てる。	ゴールがイメージできる単元構成 役割の明確化	●まず、家庭で自分ができること、家族を喜ばせることを考えた。 ●家族を喜ばせるためには、少し難しいお手伝いを決めて、実施する計画を立ててワークシートに記入した。

7	・お手伝いを成功させる準備をする。 1年生同士で教え合い、コツややり方を調べる。			
8	6年生にコツを聞き、やり方を教えてもらい、そのお手伝いを極める。	本物や本質に触れる豊かな体験活動	●6年生にコツを聞き、やり方を教えてもらって、家で上手にできるよように練習を重ねた。 ●家で、一週間の間、自分が決めたお手伝いを行い「お手伝いカード」に記入してきた。	●同じお手伝いをする反動でグループを作り、家で上手に手伝えるように練習をしたが、やり方がわからず戸惑った。そこで、解決方法を考え、6年生に教えてもらうことを決めてお願いに行った。 ●6年生にコツを聞き、やり方を教えてもらって、家で上手にできるよように練習を重ねた。 ●家で、一週間の間、自分が決めたお手伝いを行い「お手伝いカード」に記入してきた。
9	・実際に家庭で取り組んだことを友だちに伝え合い、良かったことや気づいたことを記録カードにまとめる。	プロセスの可視化	●家で取り組んだお手伝いについて、頑張ったこと、良かったことや気づいたことを「報告会記録カード」にまとめた。	●家で取り組んだお手伝いについて、頑張ったこと、良かったことや気づいたことを「報告会記録カード」にまとめた。
10	・6年生への報告会を開こう。 取り組んだことを振り返り、やり方やコツを伝えてもらった6年生や友だちにその成果を伝え合う。 その後、親からの手紙を6年生に代読してもらい、役割を果たすことの喜びを感じ、さらにお手伝いをする意欲をもつ。	成果を実感し共有する時間	●6年生への報告会を開いた。取り組んだことを振り返り、やり方やコツを伝えてもらった6年生や友だちにその成果を伝えた。	●親からの手紙を6年生に代読してもらい、役割を果たすことの喜びを感じ、さらにお手伝いをする意欲をもつた。
11	◆これからもつづけよう ◆自分でできるお手伝いをする ことで、家族を喜ばせよう大作戦ステージ2 ・家庭で自分がさらに続けたいことを考え、挑戦したいことを考え、記録カードに書く。	ゴールがイメージできる単元構成	●ステージ2として、さらに、家庭で自分ができること、家族を喜ばせることを考えた。	●ステージ2として、さらに、家庭で自分ができること、家族を喜ばせることを考えた。
12	・自分が学校や家庭で続けていけることや、続けて良かったことなどを発表し合い、継続して取り組むことや健康に気を付けて生活しようとする意欲をもつ。	自分の学びを振り返る内省の時間	●自分が学校や家庭で続けていけることや、続けて良かったことなどを発表し合い、継続して取り組むことや健康に気を付けて生活しようとする意欲をもつ。	●自分が学校や家庭で続けていけることや、続けて良かったことなどを発表し合い、継続して取り組むこととすることができた。

児童が身に付けた力 自分の役割を果たし、人や社会のために役立つ喜びを感じる心

